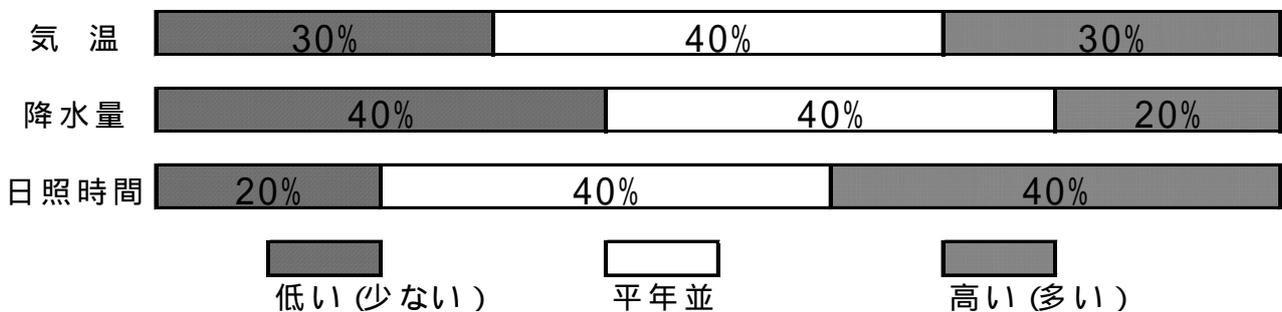


平成 2 3 年度 病害虫発生予察情報 発生予報第 2 号 (5 月)

平成 2 3 年 4 月 2 7 日
島 根 県

予報の概要			
区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並
	イネ	うどんこ病	やや少ない
		ヒメトビウンカ	平年並
果樹	ナシ	ニカメイチュウ	少ない
		イネミズゾウムシ	やや多い
		黒斑病	平年並
	カキ	黒星病	平年並
		シンクイムシ類	平年並
		ハマキムシ類	やや少ない
		ハダニ類	やや少ない
野菜	タマネギ	灰色かび病	やや少ない
		アザミマ	平年並
	イチゴ	トリフ属菌による葉枯れ	平年並 ~ やや多い
		べと病	やや少ない
		腐敗病・軟腐病	やや少ない
	灰色かび病	平年並 ~ やや多い	
	アブラムシ類	平年並	

中国地方1か月予報 (4月23日 ~ 5月22日 ・広島地方気象台 4月22日発表)
< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >



A . 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類 (小 さび病、赤さび病)

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

4月26日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量はほぼ平年並みである。
向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

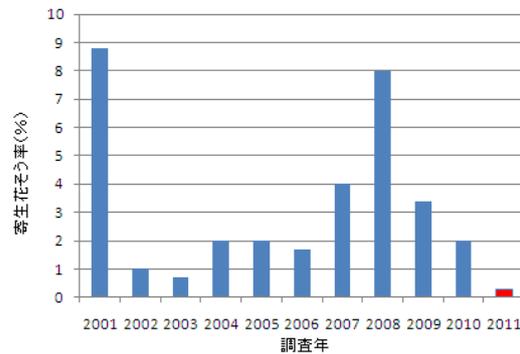
4月26日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量は平年並みである。
向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) マキムシ類

予報内容 県内ナシ栽培地帯
発生時期 やや遅い
発生量 やや少ない
根掘り 少ない
フエ口 モントラップでの誘殺を確認していない。
向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容 県内ナシ栽培地帯
発生時期 やや少ない
発生量 やや少ない
根掘り 少ない
バンダトトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
4月下旬の巡回調査(安来市)では寄生花そう率は0.3%(平成3.4%)とやや
少ない。主要種はクワオオハダニである。
向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



ナシにおけるハダニ類の寄生花そう率の推移

3) カキ

(1) 灰色かび病

予報内容 県内カキ栽培地帯
発生時期 やや少ない
発生量 やや少ない
根掘り 少ない
4月26日の巡回調査では発病葉率0.1%(平成1.5%)で平成と比べてやや少ない。
向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキ内容ダアザミウマ

予報内容 県内カキ栽培地帯
発生時期 平成並
発生量 平成並
根掘り 少ない
4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
4月26日の巡回調査では巻葉被害が認められない。
向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

(1) タネチス属菌による葉枯れ

予報内容 県内全域
発生時期 平成並
発生量 やや多い
根掘り 少ない
巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率16.7%(平成9.0%)、
発病株率0.6%(平成0.2%)と平成に比べてやや多い。
向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) ベト病

予報内容 県内全域
発生時期 やや少ない
発生量 やや少ない
根掘り 少ない
巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率6.7%(平成17.9%)、
発病株率0.1%(平成1.1%)と平成に比べてやや少ない。
向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや少ない
予報の根拠

巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率23.3%（平成64.7%）、
発病株率0.7%（平成1.6%）で平成に比べてやや少ない。
向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イチゴ
(1) 灰色かび病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平成並～やや多い
予報の根拠

巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発病株率14.0%（平成7.6%）、
発病率0.7%（平成0.3%）で平成に比べてやや多い。
向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) アブラムシ類

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平成並
予報の根拠

4月下旬の調査では、発生圃場率は11.1%（平成11.0%）、寄生株率は2.2%（平
年1.9%）で発生量は平成並みである。
向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に
関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。
農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>
e-mail nougi@pref.shimane.lg.jp